

水の大切さ

「ザー」という大きな音を出して水が流れた。ぼくたちが調理実習をしていたときのことだった。ある友達が皿洗いのときに必要以上の水を使っていたのだ。ぼくは世界で水不足が起きているのはテレビで見たことがあったので、もったいないなと思った。でも、注意することはできなかった。なぜなら

「水なんていっぱいあるやん。」
と言われたら反論できなかつたからだ。これを見て、水不足とは具体的にどうなっているのか、原因は何なのかに興味をもった。
調べてみると、水不足は深刻なものになっているのがわかった。淡水は水全体の約〇・八%しかなく、水不足で全人口の五分の一の十二億人の人が苦しんでおり、年間五〇〇〇一〇〇〇万人の人が死亡しているそうだ。

曾爾村立曾爾中学校 三年

新宅 祐介

この事実を知って、おどろきと共にいつでも水が飲めるぼくたちは幸せだなと感じた。それに、やはり節水をこころがけるべきだと思つた。節水には、いろいろな方法がある。

例えば、お風呂の残り湯を利用して、洗濯や掃除に使うことだ。ぼくの家でもこの方法は実践している。ほかにも、米のとぎ汁を食器洗いや水まき利用することもできる。

では、水不足の原因とは何なのだろうか。原因の一つに、地球温暖化がある。地球温暖化によって、水はたくさん蒸発するし、降水量も減るそうだ。水不足に地球温暖化が関わっているということは、ただ単に水を大切にすれば、電気やテレビをこまめに切ること

や、家電製品は不必要なときにコンセントをぬくといった方法がある。

このようなことを調べていくうちに、ぼくはあるできごとを思い出した。ぼくの住んでいる曾爾村は、山に囲まれている小さな村だ。曾爾の山水はともきれいで、ぼくの家ではトイレや食器洗い、洗車などに用いている。真冬のある日、その山水がおおってしまい、出てこなくなってしまうのだ。山水を多用していたぼくたちは、とても困ってしまった。このようなできごとから水の大切さが改めてわかった。

水不足の現状と原因がわかったぼくは、今ならその友達に自信をもって注意することが出来る。その友達は、

「日本では、水が無料で簡単に手に入る。」と主張するかもしれない。しかし、日本でも近年、湧水が多く発生しており、水不足になるかわからない状態なのだ。だから、無料だからといって無駄使いしてはいけないと思う。調べたことから、ぼくは水不足がこんなに深刻になっっているのは知らず、とてもおどろいた。ぼくたちはいつも水が飲めるので、

水不足でたくさんの方が亡くなっているのは信じられない。ただ、これが現状なのだ。水がいつでも飲めるぼくたちは、水があることに感謝しなければならぬ。そして、ぼくたちができることは、日々の節水とエコの取り組みだと思う。水不足で苦しんでいる人たちがいるのだから、それはしなければならぬことだと思う。そして、節水やエコを行う原動力となるのは、危機感だ。人は危機感を持つてば、ある程度のことではできると思う。その危機感を持つてもらうために一人でも多くの人に水不足の現状を伝えていきたい。